

## 私が目指す保育士

香川県立観音寺第一高等学校 1年 吉政瑠夏

グローバル化が進む世界で子供たちを支える、私はそんな保育士を目指します。

グローバル化とは、「国と国の隔たり、障壁が小さくなること」をいい、

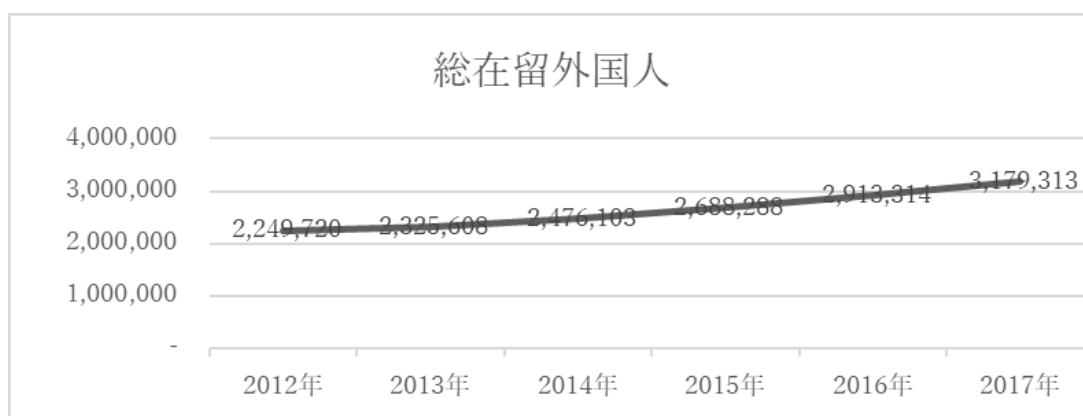
- ① 「ヒトのグローバル化」
- ② 「モノのグローバル化」
- ③ 「カネのグローバル化」
- ④ 「情報のグローバル化」

の大きく4つに分けることができます。それぞれ、どういうことかという

- ① の「ヒトのグローバル化」とは、ヒトが国から国へ移動することが多くなったこと
- ② の「モノのグローバル化」とは、輸入や輸出でモノのやりとりが活発になる、また、個人輸入がしやすくなったりすること
- ③ の「カネのグローバル化」とは、海外の株を買う、海外の口座にお金を預ける、両替が簡単になるなどカネのやりとりが活発になること
- ④ の「情報のグローバル化」とは、海外の新聞を読める、海外のヒトと簡単に会話ができるなど、海外のヒトや情報と簡単にコンタクトをとれること

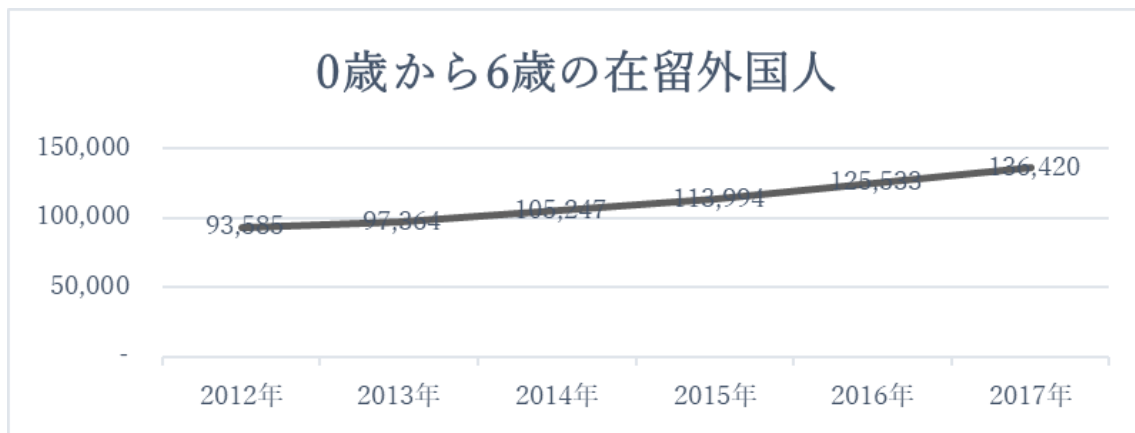
です。

そのなかで私は、①の「ヒトのグローバル化」に注目しました。私は、保育士を目指しています。高校では、ボランティアなどに参加して経験を積み、大学で幼児教育科に進み、日本で保育士として働くつもりです。



そんな私たちが住む日本にも、沢山の外国人が暮らしています。その人数は、上のグラフからも読み取れるように、年々増加しています。グラフから考えると、この先もさらに増加していくのではないかと予想できます。

そこでふと気になったのは、日本で暮らす外国人の子供たちです。



日本では、幼稚園、保育園に通う年齢の在留外国人の人数を調べると、上のグラフのように、年々増加しています。総在留外国人と同様に、この先も増加していくと考えられます。保育園、幼稚園に通うにあたって、子供、その保護者は

「言語、文化に関わる問題」

「在留外国人の保護者と、保育者の関わり」

「在留外国人の保護者と他の保護者との関わり」

と、いった問題にぶつかることがあります。0歳から6歳の在留外国人が増えているということはこれらの問題に直面している子供、保護者も増えていると考えられます。また、保育士を目指すなら、これらは私が将来ぶつかる問題でもあります。そこで、これらの問題の解決のために

①「多言語での対応」

②「幅広い海外の文化の知識による多文化理解」

の2つをできるようにしたいと考えました。

私は特に①「多言語での対応」が重要と考えています。これは、子供、その保護者とのコミュニケーション、子供や保護者と、保育者、他の子供たちや保護者との関わりへの助けになります。

子供の具合が悪くなったときどんな風に悪いのかを聞く、保護者とスムーズに連絡が取れる、などのことが可能になります。

それだけではなく、彼らの母国語を話せば、精神的な支えにもなります。

私は、7年間海外に住んでいました。通っていたのは日本人学校で学校生活の中で不便なことはあまりありませんでした。しかし、学校の外では、日本語が通じないことが多い

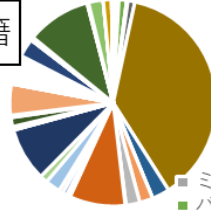
です。困っているときにどう伝えればよいかも、気さくにはなしかけてくれても何を話しているかも分かりません。また、話そうとしても、相手に伝わるのか、相手に返事を返せるのか不安でうまく言葉がでてきません。「言語」の壁は想像以上に大きなものでした。

だからこそ、「相手と言葉を話すことができる」ことは大きな支えになる、と強く思うのです。母国語以外の言葉で話すとき、「発音や言葉使いがおかしくなかつたろうか」、「相手話せただろうか」、「相手が話したことを聞き取れるだろうか」と、様々な不安を抱えています。そんなとき、「相手は自分が普段使う言葉も話せる」と知っている、「どうしても分からなければ、自分が普段から使っている言葉で聞ける」とリラックスできます。もちろん、相手と知ろうとする積極的な態度、違いを知り、理解しようとすることは、言うまでもなく重要なことです。相手と関わろうとしなければ何も始まりません。しかし、そこで日本語だけでなく、「相手の国の言葉話す」ことができれば、子供たち、その保護者たちとの距離を縮めるさいに、大きな力となってくれます。

②では、相手の国の文化の知識があることで、日本との違いに気づくことができます。出身国以外の国で暮らせば、靴は室内で脱ぐ、食べ物は残さず食べるのがマナーなどの日常生活での習慣の違いから、肌を隠す、礼拝があるなどの宗教上の違い、そこから生じる日常生活での問題があります。相手の文化についての知識があることで、気になることを先に子供本人や保護者に確認するなど、トラブルが起こる前に対応できると思うのです。

そこで、0歳から6歳の在留外国人の国籍をグラフに表しました。197カ国の中でも、最も多いのは中国、また、韓国やフィリピン、ブラジルの国籍を持つ子供も多く暮らしていると分かります。

2017年 0歳から6歳の在留外国人の国籍



- |               |                    |                |
|---------------|--------------------|----------------|
| ■ アフガニスタン     | ■ アラブ首長国連邦         | ■ ミャンマー        |
| ■ バーレーン       | ■ ブータン             | ■ バングラデシュ      |
| ■ ブルネイ        | ■ カンボジア            | ■ スリランカ        |
| ■ 中国          | ■ 台湾               | ■ キプロス         |
| ■ 東ティモール      | ■ インド              | ■ インドネシア       |
| ■ イラン         | ■ イラク              | ■ イスラエル        |
| ■ ヨルダン        | ■ 韓国               | ■ 朝鮮           |
| ■ クウェート       | ■ ラオス              | ■ レバノン         |
| ■ マレーシア       | ■ モンゴル             | ■ オマーン         |
| ■ モルディブ       | ■ ネパール             | ■ パキスタン        |
| ■ フィリピン       | ■ カタール             | ■ サウジアラビア      |
| ■ シリア         | ■ シンガポール           | ■ タイ           |
| ■ トルコ         | ■ ベトナム             | ■ イエメン         |
| ■ パレスチナ       | ■ アルバニア            | ■ オーストリア       |
| ■ ベルギー        | ■ ブルガリア            | ■ ベラルーシ        |
| ■ クロアチア       | ■ チェコ              | ■ デンマーク        |
| ■ エストニア       | ■ フィンランド           | ■ フランス         |
| ■ ドイツ         | ■ ギリシャ             | ■ ハンガリー        |
| ■ アイスランド      | ■ アイルランド           | ■ イタリア         |
| ■ キルギス        | ■ カザフスタン           | ■ リヒテンシュタイン    |
| ■ ルクセンブルク     | ■ ラトビア             | ■ リトアニア        |
| ■ モナコ         | ■ マルタ              | ■ モルドバ         |
| ■ マケドニア       | ■ オランダ             | ■ ノルウェー        |
| ■ ポーランド       | ■ ポルトガル            | ■ ルーマニア        |
| ■ ロシア         | ■ サンマリノ            | ■ スペイン         |
| ■ スウェーデン      | ■ スイス              | ■ トルクメニスタン     |
| ■ タジキスタン      | ■ 英国               | ■ ウクライナ        |
| ■ ウズベキスタン     | ■ パチカン             | ■ アルメニア        |
| ■ アゼルバイジャン    | ■ アンドラ             | ■ ジョージア        |
| ■ スロベニア       | ■ スロバキア            | ■ ボスニア・ヘルツェゴビナ |
| ■ セルビア・モンテネグロ | ■ モンテネグロ           | ■ セルビア         |
| ■ コソボ共和国      | ■ アルジェリア           | ■ ブルンジ         |
| ■ ボツワナ        | ■ カメルーン            | ■ 中央アフリカ       |
| ■ チャド         | ■ コンゴ共和国           | ■ コンゴ民主共和国     |
| ■ カーボベルデ      | ■ コモロ              | ■ ベナン          |
| ■ ジブチ         | ■ エチオピア            | ■ 赤道ギニア        |
| ■ エリトリア       | ■ ガボン              | ■ ガーナ          |
| ■ ギニア         | ■ ガンビア             | ■ ギニアビサウ       |
| ■ コートジボワール    | ■ ケニア              | ■ リベリア         |
| ■ リビア         | ■ レソト              | ■ マダガスカル       |
| ■ マリ          | ■ モーリタニア           | ■ モロッコ         |
| ■ マラウイ        | ■ モーリシャス           | ■ モザンビーク       |
| ■ ニジェール       | ■ ナイジェリア           | ■ ナミビア         |
| ■ ルワンダ        | ■ セネガル             | ■ シエラレオネ       |
| ■ ソマリア        | ■ スーダン             | ■ スワジランド       |
| ■ サントメ・プリンシペ  | ■ セーシェル            | ■ タンザニア        |
| ■ トーゴ         | ■ チュニジア            | ■ ウガンダ         |
| ■ 南アフリカ共和国    | ■ エジプト             | ■ ブルキナファソ      |
| ■ ザンビア        | ■ ジンバブエ            | ■ アンゴラ         |
| ■ 南スーダン共和国    | ■ パルバドス            | ■ バハマ          |
| ■ ベリーズ        | ■ カナダ              | ■ コスタリカ        |
| ■ キューバ        | ■ ドミニカ共和国          | ■ ドミニカ         |
| ■ エルサルバドル     | ■ グアテマラ            | ■ ハイチ          |
| ■ ホンジュラス      | ■ ジャマイカ            | ■ メキシコ         |
| ■ ニカラグア       | ■ パナマ              | ■ セントルシア       |
| ■ セントビンセント    | ■ セントクリストファー・ネーヴィス | ■ トリニダード・トバゴ   |
| ■ 米国          | ■ グレナダ             | ■ アンティグア・バーブーダ |
| ■ アルゼンチン      | ■ ポリビア             | ■ ブラジル         |
| ■ チリ          | ■ コロンビア            | ■ エクアドル        |
| ■ ガイアナ        | ■ パラグアイ            | ■ ペルー          |
| ■ スリナム        | ■ ウルグアイ            | ■ ベネズエラ        |
| ■ オーストラリア     | ■ フィジー             | ■ キリバス         |
| ■ マーシャル       | ■ ミクロネシア           | ■ ニューゼーランド     |
| ■ ナウル         | ■ バブアニューギニア        | ■ パラオ          |
| ■ ソロモン        | ■ トンガ              | ■ ツバル          |
| ■ バヌアツ        | ■ サモア              |                |

だから、まず中国語と世界共通言語と言われる英語、そして韓国語やフィリピン語、ポルトガル語と多く日本に在留している国の言葉、またこれらの国の文化や多く信仰されている仏教、儒教、イスラム教、キリスト教などの宗教について学んでいきたいと思います。

多言語で対応できて子供たちと保護者に安心を与える、文化や宗教の知識と理解があり日常生活をサポートできる、そんな保育士を目指します。

#### ■参考文献

在留外国人について

出典：[www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei\\_ichiran\\_touroku.html](http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html)

多文化子育てについて

出典：[http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/grow/kindergarden\\_multi\\_parent.html](http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/grow/kindergarden_multi_parent.html)

グローバル化について

出典：<https://champmagazine.info/globalization-meaning/>

世界の母国語と宗教について

出典：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/data.html>

出典：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/data.html#section1>

出典：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/korea/data.html#section1>

出典：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/data.html#01>